

# 告 辞

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

皆さんは、中学校課程を無事に終えられ、<sup>は</sup>栄えある卒業証書を手  
にされました。これは、皆さんが今日まで<sup>こんにち</sup>勉学や心身の<sup>たんれん</sup>鍛錬に励ま  
れた<sup>たまもの</sup>賜物であり、喜びもひとしおのことと思います。

さて、皆さんの中には、勉強や部活動で、自分なりの学習方法や  
練習方法を見つけられなかったり、自分の意見が人に伝わらず困っ  
たりした経験はありませんか。どうすればこの状況を変えられるで  
しょうか。その方法の一つは、失敗を恐れず、もっとよくなるよう  
に考え抜く「探究心」を持つことにあります。

<sup>きょう</sup>今日は、この「探究心」を生涯持ち続け、日本の「ものづくり」  
界を牽引してきた<sup>たみや しゅんさく</sup>田宮 俊作さんを紹介します。田宮さんは、世界  
中から注目される模型メーカーのトップとして、模型作りの魅力を  
世界に発信し続けました。皆さんの中にも、プラモデルやラジコン  
といった模型に夢中になっている人がいるのではないのでしょうか。

田宮さんが手掛けた模型には、「本物に近づけることで模型作り  
が何倍も楽しくなる」という強い思いが込められています。そのた  
め、田宮さんは、購入した車両を自分で解体して、構造を細かく調  
べ上げ、本物の姿を追い求めました。また、こども向けの模型であ  
っても妥協せず、細部まで忠実に再現することに徹底してこだわ  
りました。

しかし、この思いは最初から世間に受け入れられたわけではあり  
ません。こどもたちが求めていたのは、本物に近いことよりも、見

た目の格好よさや、動かす楽しさでした。

良かれと思って貫いたこだわりが、周囲との<sup>へだ</sup>隔たりを生み、思い  
悩む日々が続きました。それでも田宮さんは「本物に近づけて模型  
作りを何倍も楽しくする」という信念を持ち続けます。その上で、  
誰もが感動できる模型作りとなるように、周囲の意見にも耳を傾け、  
試行錯誤を重ね、少しずつ人々の心を掴んでいったのです。

田宮さんは、ただこだわり続けるだけではなく、他者の声に耳を  
傾け、様々な方法を繰り返し<sup>こころ</sup>試み、失敗を重ねながら自分が納得  
するまで答えを追究していきました。その飽くなき「探究心」が、  
田宮さんの模型を世界中に知らしめたのです。

皆さんはこれから、義務教育という課程を終え、自らの意志で新  
しい道を切り拓く段階へと進みます。困難を乗り越えようとするど  
き、未知の領域へ踏み出そうとするとき、「探究心」をもって、豊  
かな未来を創り出して行ってください。

最後になりましたが、校長先生をはじめ、諸先生方、数々の御支  
援をいただきました、保護者の皆様や地域の皆様、関係の方々に、  
深く感謝申し上げますとともに、卒業生の皆さんが、健やかに成長  
されることを心からお祈りしまして、告辞といたします。

令和8年3月6日

鈴鹿市教育委員会